

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

# ガビチョウ

学名 *Garrulax canorus*  
スズメ目チメドリ科



藪地を好むガビチョウ



囀るガビチョウ

## 中国原産

中国では飼育の習慣があり、早朝から籠に入れたガビチョウを公園に持ち寄って鳴き合わせが頻繁に行われています。

個体数が多いので

生態系ピラミッドの一端を担いつつあり、

在来種に与える影響も大きい

## 全長

(嘴の先端から尾羽の先端まで) 約 23cm。  
雌雄同色。  
全身が赤褐色で目の周りに勾玉型の白斑があります。

## 分布

神奈川県では北部から分布を拡大し、2010 年以降三浦半島でも増加しました。現在は全域に広がり、半島先端の城ヶ島にも生息しています。

## 生息環境と生態

アオキなどの低木やアズマネザサが繁茂した藪地を好み、樹林や里山のほか、公園や人家の庭などにも現れます。藪や植込みの 50cm から 2 m ほどの高さの枝に枯枝や枯葉で外径 20cm ほどのお椀型の巣を作り、数個の青い卵を産みます。

雄は「キュルキュル、ピーコピーコ」などと複雑・多様で大きな声でさえずります。特に朝夕に頻繁で、夏には未明(朝暗い頃)からさえずり、他の鳥の鳴き声を真似することも多くあります。

繁殖期以外は数羽の群を作り「ジュルジュル」などの声を発して連絡しながら藪地を潜行します。地上で昆虫を食べることが多く、木の実を食べることもあります。三浦半島で増加したのは、森林に人の手が入らず林床に藪が多いことが原因の一つと考えられます。



ガビチョウ巣卵



# 影響

生息・営巣環境がウグイスと似ているため、競合によるウグイスなどの減少が心配されます。

冬期には採食環境でシロハラ・クロジなどと競合する可能性があります。

個体数が多いので生態系ピラミッドの一端を担いつつあり、在来種に与える影響も大きいと考えられます。

## アオキやアズマネザサが繁る藪 競合の可能性

### ウグイス 在来種



営巣環境で競合が心配される



### クロジ 在来種



クロジ♂

冬の採食環境で競合が心配される

### シロハラ 在来種



クロジ♀

### ソウシチョウ 外来種

特定外来生物



注意 拡大中!

ソウシチョウは、丹沢や箱根に多く生息していますが三浦半島でも見つかっています。ガビチョウと同じように藪地を好みます。今後三浦半島で分布を拡大する可能性があるため、増加する前に早期に防除することが重要です。

### ガビチョウ 外来種

特定外来生物



藪の地上で採食するガビチョウ

## 捕獲に関して

環境省による特定外来生物に指定されていながら、捕獲方法は確立されていません。餌に誘引されてアライグマや台湾リス用の箱罠で捕獲されることもありますが、効率は悪いです。藪地を群れで行動し、鳴き声でコミュニケーションをはかっていることから、録音した鳴き声を再生することで誘引し、大きめの箱罠で捕獲することが有効と考えられます。



捕獲する際は、外来生物法に基づく環境大臣の確認または鳥獣保護管理法による捕獲許可が必要です